未来を見るプロジェクト

4月2日から13日まで、道の駅「グランテラス筑西」とその周辺道路を会場として、三菱商事（株）を中心とした民間企業と協働で、自動配送ロボットの実証実験を行いました。農業分野での活用を図る目的としては、日本初の試みです。期間中は実験の様子を公開するとともに、ロボット開発に携わったベンチャー企業のリーダー2人による若者へ向けた未来を語るWEBセミナーを開催するなど、最先端技術をとおして、地域や自分の明るい未来をイメージしてもらう機会を設け、多くの人に来場いただきました。

【問】企画課（本庁4階）☎24-2197

実験スケジュール

3月29日～4月1日

【近接監視走行準備】
- ロボットが問題なく作動するか。
- 予定のルートを走行できるか。
- 通信環境は問題ないか。

4月2日

【近接監視走行審査】
- 茨城県警察本部及び筑西警察署による走行審査。
- 近接監視により決められたルールのとおり公道を走行できるか。

【市長記者会見及びセミナー開催】
- 本格的に実験開始することを報道陣の前で発表。その後、実験に参画した企業経営者のWEBセミナーを開催。

4月5日～8日

【近接監視によるオペレーション開始】

【遠隔監視走行準備】
- 農産物の集荷オペレーションの実施。
- 道の駅テナントからの配送オペレーションの実施。

【子ども向けイベントの開催】

4月9日

【遠隔監視走行審査】
- 茨城県警察本部及び筑西警察署による走行審査。
- 遠隔監視により決められたルールのとおり公道を走行できるか。

4月12日

【遠隔監視によるオペレーション実施】
- 農産物集荷オペレーション実施。
- 道の駅テナントからの配送オペレーション実施。

4月13日

【警察庁視察】
- 遠隔監視走行による農産物集荷オペレーションを視察。

【実証実験終了】
- 予定していたすべてのオペレーションを無事に終了。

①実験初期は手動で操縦　②記者会見に集まった報道陣の数から注目度が分かります　③WEBセミナーは道の駅から配信

実験に協力してくれた生産者と道の駅テナントのみなさんからは、実用化を待ち望む声が聞かれました

点をつくりつなげていく

（株）ティアフォー
取締役COO
田中（たなか）　大輔（だいすけ）さん

未来という言葉は、過去にさまざまな人が定義しています。その1人に故スティーブ・ジョブズがいます。スティーブは「未来というのは、過去の点のつながりである。過去のひとつひとつが未来を作っていく」と語っています。みなさんも、これまでさまざまな経験をされていると思いますが、その経験を大切にしていくことによって、新しい未来が開いていくということをあらわしていると思います。

最近の世の中の事象は複雑性が増していて、技術や法律、言語などの知識が必要な時代となっています。この時代に生きていくには、食わず嫌いをせずに何事にもチャレンジし、文系・理系・国内・海外を問わずさまざまなことを吸収して、いたる所に点を作り出し、その点をつなげていくことが非常に大事です。

常に全力投球というのは大変かもしれません。瞬間瞬間で「これはがんばらなきゃいけない」という時があるかと思います。「今がんばると未来が変わるかな」、「未来が華やかになるかな」という瞬間を敏感に感じ取り、その瞬間を手を抜かず全力でチャレンジして欲しいと思います。

ベンチャー経営者

2人が語る「未来」

私は、文系と理系の融合ということが大学で流行っていた時代に情報文化学部に入学しました。最適化アルゴリズムやオペレーションズリサーチという言葉が使われますが、アルゴリズムを使って世の中の難しい問題をプログラミングでどう解決するかを専門で研究していました。その技術と実社会の懸け橋になりたいと思い、平成27年に会社を立ち上げ今にいたります。

1年半ほど前に、フォーブスアジアアンダー30に選出いただいたのですが、実はこれは大学時代からの夢でした。チャンスは突然訪れると言われますが、評価も突然訪れたわけです。匿名での推薦による受賞でしたが、日々愚直に事業を行っていれば、誰かが見ていてくれるんだなと思いました。推薦してくれた人には、とても感謝しています。

私は、会社を創業してから紆余曲折してきましたが、それを後悔はしていません。むしろ、遠回りしたからこそ今があると思っています。やりたいことがないという事は悪いことではなく、「何でもいいから始めてみる」チャンスです。ポジティブに何事にも挑戦していって欲しいです。

遠回りしたから今がある

（株）オプティマインド
代表取締役社長
松下（まつした）　健（けん）さん